

地域・在宅看護論 10単位 315時間

I. 科目構築の考え方

地域・在宅看護論は、地域で生活するあらゆる健康レベルの人びととその家族や地域を理解し、地域における多様な場と看護の役割・機能を学ぶ。地域・在宅看護論では、看護の対象を個人、集団、地域に拡大し、ライフサイクル全期をとおしてあらゆる健康のレベルにある人びとの健康と生活の支え合いについて自助・互助・共助・公助の視点から地域を理解する。これらの概念や社会資源（システム）を学ぶ内容として地域・在宅看護概論を設定する。また、地域を嬉野市とその近隣に絞り込み、地域の特徴や資源を活用し地域で生活する人びとの健康問題や地域包括ケアシステムによる支え合いと地域住民の健康ニーズや多様な生活に応じた看護の提供について学ぶ。また、地域・在宅における社会資源は、保健・医療・福祉の連携・協働によって提供されるため、関連職種や関連法規を理解する内容として地域・在宅看護方法論を設定する。

地域で生活する人びとと暮らし、地域コミュニティ活動、健康支援活動（健康づくり）を理解するために、地域・在宅看護論実習Ⅰを1年次の実習科目として設定する。次に、2年次の科目として地域で生活する人びとの健康の保持・増進、自立支援、疾病の予防に関わる看護師の役割を学ぶために地域・在宅看護論実習Ⅱを設定する。また、健康問題を持つ在宅療養者とその家族を対象とする看護、地域包括ケアの実際を学ぶために地域・在宅看護論実習Ⅲを設定する。

II. 目的・目標

1. 目的：地域で生活するあらゆる健康レベルの人びととその家族を理解し、地域における多様な場での看護の役割や機能を理解する。

2. 目標

- 1) 地域・在宅看護が必要になる背景および地域・在宅看護の目的や特徴を理解できる
- 2) 地域の特徴、地域で生活する人びとの暮らしおよび健康問題が理解できる
- 3) 地域で生活する人々の健康問題を理解し、健康支援活動・介護予防活動の特徴を理解できる
- 4) あらゆる健康レベルの地域・在宅療養者の看護の実際を理解できる
- 5) 地域・在宅看護に必要な看護技術を身につけることができる
- 6) 地域・在宅療養を支える制度および他職種・多職種連携の意義とその方法を理解できる
- 7) 地域包括ケアシステムにおける看護の役割と社会資源の活用について理解できる
- 8) 地域・在宅看護を取り巻く社会や対象の状況や看護の特徴から、2050年の地域・在宅療養の展望と課題を自分の言葉で述べることができる

Ⅲ. 科目の構成

専門分野	科目名 (時間)	単元 (時間)
地域・在宅看護論 11 単位 360 時間	地域・在宅看護概論 (1 単位 15 時間)	地域・在宅看護の対象 (2)
		地域・在宅看護が必要な社会背景と在宅看護の変遷 (2)
		地域・在宅看護の定義・目的 (2)
		地域・在宅看護を支える制度 (4)
		地域・在宅看護における看護師の役割と地域包括ケアシステム (2)
		地域・在宅看護における倫理的課題 (2)
		試験 (1)
	地域・在宅看護方法論Ⅰ (1 単位 15 時間)	地域の特性 (2)
		地域で生活する人びとと暮らしの理解 (4)
		生活の場と健康支援 (2)
		嬉野市の健康づくりの目標と取り組み (4)
		嬉野市の特徴と防災 (2)
	試験 (1)	
	地域・在宅看護方法論Ⅱ (1 単位 30 時間)	地域における暮らしを支える看護 (4)
		地域・在宅看護を支える看護技術 (26)
	地域・在宅看護方法論Ⅲ (2 単位 45 時間)	地域・在宅看護の展開 (8)
		地域・在宅看護に必要な看護技術 (16)
		健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 (12)
		地域・在宅療養が必要な神経難病患者の看護 (2)
		地域・在宅療養が必要な筋ジストロフィー患者の看護 (2)
		地域・在宅療養の展望と課題 (4)
	試験 (1)	
	地域・在宅看護方法論Ⅳ (1 単位 30 時間)	地域・在宅療養を支える制度 (12)
		地域・在宅療養を支える他職種・多職種連携 (10)
		訪問看護制度と訪問看護ステーションのサービスのしくみ (2)
		看護小規模多機能型居宅介護のサービスのしくみ (2)
		地域包括支援センターの役割 (2)
		介護者の理解と家族支援 (2)
	地域・在宅看護論実習Ⅰ (1 単位 45 時間)	地域や地域で生活する人びとと暮らしの理解
	地域・在宅看護論実習Ⅱ (2 単位 90 時間)	地域で生活する人びとの健康の保持・増進、自立支援、疾病予防に関わる看護
	地域・在宅看護論実習Ⅲ (1 単位 45 時間)	健康問題を持つ地域・在宅療養者の看護

IV. 授業の概要 (シラバス)

分野	専門分野	科目名 単位 (時間)	地域・在宅看護概論 1 単位 (15 時間)	授業 形態	講義	開講 時期	1 年 前期												
講師名 所属	岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 9 年																		
授業概要	<p>地域・在宅看護論では、地域で生活する人びとの暮らしの理解を深め、地域のあらゆる場で生活するあらゆる人びと、あらゆる健康レベルにある個人・家族、集団、地域を対象にした看護を実践する。地域で生活している人々は、様々な社会資源に支えられている。2025 年問題、2040 年問題の背景にある人口構造の変化、社会のニーズの変化を的確に捉え、地域・在宅看護を必要とする社会背景とそれを支える諸制度についての理解を深める。地域・在宅看護の目的とその必要性の理解し、地域・在宅における健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復、または人生の完成としての能き死を支える看護の基盤を学ぶ。</p>																		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域および地域で生活する人びとの理解ができる 2. 地域・在宅看護が必要になる背景を理解できる 3. 地域・在宅看護の目的や特徴を理解できる 4. 地域・在宅療養を継続するための地域包括ケアシステムと在宅療移行支援を理解できる 																		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 I 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 II 地域・在宅看護の展開 医学書院 3. ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護 1 地域療養を支えるケア メディカ出版 																		
参考文献	1. 国民衛生の動向																		
評価方法	<p>詳細は別紙「評価計画」参照</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">筆記試験</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">○</td> <td style="width: 25%;">レポート</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 20%;">技術試験</td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート		技術試験		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術試験															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師														
1	1. 地域・在宅看護の対象 1) 地域 2) 地域で生活する人びと (ライフサイクル) 3) 地域で生活する人びとの健康レベル 4) 多様な生活の場			講義	岩谷 望美														
2	2. 地域・在宅看護が必要となる社会背景と在宅看護の変遷 1) 地域・在宅看護が必要となる社会背景と根拠 (1) 人口構成の変化 (2) 国民の健康観・価値観 (3) 在宅医療・介護の動向と社会保障費用の現状 2) 在宅看護の変遷			講義	岩谷 望美														

	(1)在宅医療・在宅看護のしくみ (2)在宅看護の変遷		
3	3. 地域・在宅看護の定義・目的 1)地域・在宅看護のめざすもの (1)地域・在宅看護が提供される場 (2)QOL の維持向上	講義	岩谷 望美
4	4. 地域・在宅看護における看護師の役割と地域包括 ケアシステム 1)地域包括ケアシステムにおける他職種・多職種連携 2)地域包括ケアシステムにおける在宅移行支援	講義	岩谷 望美
5	5. 地域・在宅看護を支える制度 1)介護保険制度 2)訪問看護制度	講義	岩谷 望美
6	6. 地域・在宅看護における倫理的課題 1)在宅療養者・家族の権利保障 (1)自己決定権 (2)情報管理 (3)成年後見制度 (4)虐待の防止	講義	岩谷 望美
7	6. 地域・在宅看護における倫理的課題 2)療養者を抱える家族に及ぼす影響 (1)認知症高齢者 (2)介護負担による引き起こされる問題	講義	岩谷 望美
8	終講試験	試験 (評価)	単位認定者 岩谷 望美

分野	専門分野	科目名 単位(時間)	地域・在宅看護方法論 I 1 単位 (15 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 前期
講師名 所属	岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 9 年						
授業概要	地域の特徴、地域で生活する人びとの暮らしを理解するために、嬉野市内等で生活する人びとにインタビューを行い考察する。地域で生活する人びとの健康問題を理解し、地域でどのような健康施策や事業が行われているか学びを深める。地域包括ケアシステムを理解し、地域で生活する人びとがあらゆる社会資源に支えられ生活していることを理解する。また、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割と社会資源の活用について理解を深める。近年、自然災害が多発しており地域住民の安全確保やリスクマネジメントが重要である。嬉野市の地域特性や地域防災について理解を深める。						
科目目標	1. 地域の特徴、地域で生活する人々の暮らしが理解できる 2. 地域で生活する人々の健康課題が理解できる 3. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割および社会資源について理解できる 4. 嬉野市の地域特性と防災活動の実際を理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 I 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 II 地域・在宅看護の展開 医学書院 3. ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護 1 地域療養を支えるケア メディカ出版						
参考文献	必要に応じて授業中に紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 ※講義の欠席がある場合は課題を課す						
	筆記試験	○	レポート	○	技術試験		
	口頭試問		授業態度		出席状況		
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1	1. 地域の特徴 1) 地域の多様性 2) 嬉野市の特徴 1) 嬉野市の人口構造 ・ 人口の推移 ・ 年代別人口 2) 嬉野市の地域の特徴 ・ 地形的特徴 ・ 産業 ・ 文化 ・ 歴史			講義・演習		岩谷 望美	
2	2. 生活の場と健康支援 1) 生活（暮らし）とは何か			講義		岩谷 望美	

	<p>2) 生活の場と健康支援の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校 ・ 職場 ・ 病院（施設） ・ 家庭 ・ 地域（コミュニティ） 		
3	<p>3. 地域で生活する人びとと暮らしの理解</p> <p>1) 地域（嬉野市）に出向き、生活する人びとにインタビューをおこない、地域の特徴や暮らしの様子を理解する。</p>	<p>講義・演習 （フィールドワーク）</p>	<p>岩谷 望美</p>
4	<p>3. 地域で生活する人びとと暮らしの理解</p> <p>2) 出身地の地域の特徴や暮らしの様子を理解する。</p> <p>演習課題：嬉野市および出身地の地域の特徴と生活する人びとの暮らし</p>	<p>講義・演習</p>	<p>岩谷 望美</p>
5	<p>4. 嬉野市の健康づくりの目標と取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 市民の健康問題把握 2) 市民の健康ニーズの抽出 3) 健康支援活動（健康づくり） 4) 嬉野市の健康に関する地域の特徴から健康増進レシピの企画 	<p>講義・演習</p>	<p>岩谷 望美</p>
6	<p>4. 嬉野市の健康づくりの目標と取り組み</p> <p>5) 健康増進レシピ企画のプレゼンテーション</p>	<p>演習</p>	<p>岩谷 望美</p>
7	<p>5. 嬉野市の特徴と防災</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 嬉野市の人口構造と地域の特徴からみる防災の特徴 2) 地域防災の実際 3) ハザードマップの理解 	<p>講義・演習</p>	<p>岩谷 望美</p>
8	<p>終講試験</p>	<p>試験（評価）</p>	<p>単位認定者 岩谷 望美</p>

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	地域・在宅看護方法論Ⅱ 1単位（30時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2年 前期
講師名 所属	吉井 朋代 訪問看護ステーションゆうあい 看護師特定行為研修(在宅慢性期) 池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 19年						
授業概要	地域・在宅看護が提供する「暮らしを支える看護」とは何かを考え、地域で生活する人々の健康支援活動・介護予防活動を理解する。地域包括ケアシステムにより暮らしを充実させるための健康の保持・増進、疾病の予防、早期発見・早期治療の取り組みの実際を学ぶ。また、地域・在宅看護における援助の方法や工夫点を理解し地域・在宅療養者が住み慣れた場所で安心して安全に療養生活を送ることができる看護実践を学ぶ。						
科目目標	1. 地域で生活する人々の健康課題を理解し、健康支援活動・介護予防活動の特徴を理解する 2. 地域・在宅看護における援助の方法について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の展開 医学書院						
参考文献	必要に応じて授業中に紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート		技術試験		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1	1. 地域における暮らしを支える看護 1) 暮らしを支える看護とは (1) 暮らしの環境を整える看護 (2) 家族を支える看護 (3) ライフステージに応じた看護			講義		池ヶ谷 知美	
2	1. 地域における暮らしを支える看護 1)健康の保持・増進、疾病の予防 (1)健康な地域づくり (2)生活習慣病の予防 2)疾病の早期発見・早期治療 (1)がん検診 3)生活機能維持・向上、生活機能の低下早期発見・早期対応			講義		池ヶ谷 知美	
3～5	2. 地域・在宅看護を支える看護技術 1)在宅看護技術の応用 (1)食生活・摂食嚥下 (2)排泄 (3)清潔 (4)移動・移乗			講義・演習		池ヶ谷 知美	

	(5)服薬		
6	2. 地域・在宅看護を支える看護技術 2)家庭にある器具を使用した看護技術 足浴	講義・演習	池ヶ谷 知美
7	2. 地域・在宅看護を支える看護技術 3)医療管理を必要とする療養者の看護 (1)褥瘡管理	講義	吉井 朋代
8	2. 地域・在宅看護を支える看護技術 3)医療管理を必要とする療養者の看護 (2)膀胱留置カテーテル (3)ドレーン管理	講義	吉井 朋代
9	2. 地域・在宅看護を支える看護技術 3)医療管理を必要とする療養者の看護 (4)ストーマ管理	講義	吉井 朋代
10	2. 地域・在宅看護を支える看護技術 3)医療管理を必要とする療養者の看護 (5)胃瘻・経管栄養法 (6)在宅中心静脈栄養法	講義	吉井 朋代
11	2. 地域・在宅看護を支える看護技術 3)医療管理を必要とする療養者の看護 (7)非侵襲的陽圧換気法 (8)在宅酸素療法	講義	吉井 朋代
12	2. 地域・在宅看護を支える看護技術 3)医療管理を必要とする療養者の看護 (9)吸引 (10)在宅人工呼吸法	講義	吉井 朋代
13	2. 地域・在宅看護を支える看護技術 3)医療管理を必要とする療養者の看護 (11)自動腹膜灌流装置 (12)透析液供給装置	講義	吉井 朋代
14	2. 地域・在宅看護を支える看護技術 3)医療管理を必要とする療養者の看護 (13)疼痛管理・緩和ケア	講義	吉井 朋代
15	2. 地域・在宅看護を支える看護技術 3)医療管理を必要とする療養者の看護 (14)災害時のリスク管理	講義	吉井 朋代
	終講試験	試験 (評価)	単位認定者 池ヶ谷 知美

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	地域・在宅看護方法論Ⅲ 2単位（45時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2年 後期												
講師名 所属	山口 善子 活水女子大学 看護学部 講師 霜村 健 肥前精神医療センター看護師 田島 雅吉 長崎川棚医療センター看護師 前海 孝徳 長崎川棚医療センター看護師 剣持 葉子 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 14年 岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 9年																		
授業概要	地域・在宅療養の看護の特徴と一連の流れの理解し、あらゆる健康レベルの地域・在宅療養者の看護の実際の理解を深める。地域・在宅療養者の目標を考慮し、地域・在宅看護に必要な日常生活援助や療養管理指導・教育の方法を理解する。地域・在宅看護を取り巻く社会や対象の状況や看護の特徴、社会のニーズから、2050年の地域・在宅療養の展望と課題を自分の言葉で述べる。																		
科目目標	1. 地域・在宅療養の看護の特徴と一連の流れを理解できる 2. あらゆる健康レベルの地域・在宅療養者の看護の実際の理解ができる 3. 地域・在宅看護に必要な看護技術を身につけることができる 4. 地域・在宅看護を取り巻く社会や対象の状況や看護の特徴から、2050年の地域・在宅療養の展望と課題を自分の言葉で述べるができる																		
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の展開 医学書院																		
参考文献	必要に応じて授業中に紹介する 国民衛生の動向																		
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:25%;">筆記試験</td> <td style="width:15%; text-align:center;">○</td> <td style="width:25%;">レポート</td> <td style="width:15%;"></td> <td style="width:20%;">技術試験</td> <td style="width:20%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート		技術試験		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術試験															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・ 学習方法	担当講師														
1	1. 地域・在宅看護の展開 1) 在宅における看護過程の特徴			講義	岩谷 望美														
2	1. 地域・在宅看護の展開 2) 初回から看護計画立案までの過程①			講義・演習	岩谷 望美														
3	1. 地域・在宅看護の展開 2) 初回から看護計画立案までの過程②			講義・演習	岩谷 望美														
4	1. 地域・在宅看護の展開 3) 訪問看護で使用する記録			講義	岩谷 望美														
5	2. 地域・在宅看護に必要な看護技術 1) 初回訪問			講義	岩谷 望美														

	(1)訪問のための事前確認事項 (2)訪問のための契約書 (3)訪問時のマナーと留意点		
6・7	2. 地域・在宅看護に必要な看護技術 2)感染予防対策 3)バイタルサイン測定	講義・演習	岩谷 望美
8・9	2. 地域・在宅看護に必要な看護技術 4)日常生活援助や療養管理指導・教育の実際 (1)入浴介助 (2)排泄介助 (3)リハビリテーション (4)服薬管理	講義・演習	岩谷 望美
10	2. 地域・在宅看護に必要な看護技術 5)ICTを活用した健康管理、指導・教育 (1)ICT活用推進の背景 (2)スマートフォンアプリ、ウェアラブル計測機器による健康管理 (3)ビデオ通話システムにおける地域・在宅療養者の見守りシステム、テレナーシング (4)施設間連携・多職種連携と健康管理システム ①ピカピカリンク、あじさいネット ②99さがネット ③チャットボット「ここねちゃん」	講義・演習	岩谷 望美
11・12	2. 地域・在宅看護に必要な看護技術 5)ICTを活用した健康管理、指導・教育 (1)地域・在宅療養者の健康管理に活用できる配信動画作成	演習	岩谷 望美
13	3. 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 1)脳血管疾患療養者	講義	岩谷 望美
14	3. 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 2)認知症療養者	講義	山口 善子
15	3. 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 3)終末期療養者	講義	山口 善子
16	3. 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 4)子どもの療養者	講義	剣持 葉子
17	3. 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 5)難病の療養者	講義	岩谷 望美
18	3. 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 6)精神障害者	講義	霜村 健
19	4. 地域・在宅療養を必要な神経難病患者の看護 1)神経難病患者の特徴 2)神経難病患者の看護の実際	講義	田島 雅吉

	3) 地域・在宅療養に向けての支援		
20	5. 地域・在宅療養に必要な筋ジストロフィー患者の看護 1) 筋ジストロフィー患者の特徴 2) 筋ジストロフィー患者の看護の実際 3) 地域・在宅療養に向けての支援	講義	前海 孝徳
21	6. 地域・在宅看護のマネジメント 1) 2050年を見据えた地域・在宅看護の展望と課題①	講義	岩谷 望美
22	6. 地域・在宅看護のマネジメント 1) 2050年を見据えた地域・在宅看護の展望と課題②	講義・演習	岩谷 望美
23	終講試験	試験(評価)	単位認定者 岩谷 望美

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	地域・在宅看護方法論Ⅳ 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義	開講 時期	3 年 前期												
講師名 所属	糸山 尚美 嬉野医療センター MSW 小浜 由紀子 嬉野医療センター 地域医療連携室 看護師長 富永 文子 長崎川棚医療センター 地域医療連携室 看護師長 池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 19 年																		
授業概要	地域・在宅療養を支える制度および訪問看護ステーションをはじめとする事業所等のしくみを理解し訪問看護についての理解を深める。地域・在宅療養が様々な職種から支えられており、連携・協働されていること、またその意義と方法の理解を深める。																		
科目目標	1. 地域・在宅療養を支える制度を理解できる 2. 訪問看護ステーションのしくみを理解できる 3. 地域・在宅療養を支える多職種連携の意義とその方法を理解できる																		
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の展開 医学書院																		
参考文献	1. 医療福祉総合ガイドブック 医学書院																		
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">筆記試験</td> <td style="width: 15%;">○</td> <td style="width: 25%;">レポート</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 20%;">技術試験</td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート		技術試験		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術試験															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師														
1	1. 地域・在宅看護を支える制度 1) 地域包括ケアシステム 2) 社会資源（自助・互助・共助・公助）の活用			講義	糸山 尚美														
2	1. 地域・在宅看護を支える制度 3) 医療保険制度 4) 介護保険制度①			講義	糸山 尚美														
3	1. 地域・在宅看護を支える制度 4) 介護保険制度② (1) 介護保険申請 (2) 介護サービス利用までの流れ (3) 介護保険法と関係職種の機能 ① 介護支援専門員 (4) ケアマネジメント・ケースマネジメント			講義	糸山 尚美														
4	1. 地域・在宅看護を支える制度 5) 障害者を支える制度 (1) 身体障害者手帳 (2) 障害者総合支援法			講義	糸山 尚美														
5	1. 地域・在宅看護を支える制度 6) 難病療養者を支える制度			講義	糸山 尚美														

	(1) 難病の患者に対する医療費等に関する法律 (難病法) や難病対策要綱 (2) 医療費の公費補助		
6	1. 地域・在宅看護を支える制度 7) 子どもの在宅療養を支える制度 (1) 公費負担医療制度	講義	糸山 尚美
7	2. 地域・在宅看護を支える他職種・多職種連携 1) 居宅介護支援事業所の役割と機能 2) 介護支援専門員の役割と機能	講義	池ヶ谷 知美
8	2. 地域・在宅看護を支える他職種・多職種連携 3) 療養の場移行に伴う看護と連携 (1) 外来・地域連携部門との看護連携 (2) 入退院支援	講義	小浜 由紀子
9	2. 地域・在宅看護を支える他職種・多職種連携 3) 療養の場移行に伴う看護と連携 (3) 地域連携 ①多職種との連携・協議 ②地域医療連携パス	講義	小浜 由紀子
10	2. 地域・在宅看護を支える他職種・多職種連携 4) 地域・在宅看護における連携の特徴 (1) チームケア (2) 地域包括ケア (3) 医師との連携 (4) 介護保険の社会資源との連携	講義	富永 文子
11	2. 地域・在宅看護を支える他職種・多職種連携 4) 地域・在宅看護における連携の特徴 事例紹介・事例検討	講義・演習	富永 文子
12	3. 訪問看護制度と訪問看護ステーションのサービスのしくみ 1) 訪問看護の利用者と保険制度 2) 訪問看護利用までの手順	講義	富永 文子
13	4. 看護小規模多機能型居宅介護のサービスのしくみ 1) 小規模多機能型居宅介護のサービスの特徴 2) 小規模多機能型居宅介護の対象	講義	池ヶ谷 知美
14	5. 地域包括支援センターの役割 1) 介護予防ケアマネジメント 2) 包括的・継続的ケアマネジメント 3) 総合相談 4) 権利擁護	講義	池ヶ谷 知美
15	6. 介護者の理解と家族支援 1) 要介護者を介護する家族の状況 2) 在宅看護における家族看護のポイント	講義	池ヶ谷 知美

	3) 家族介護者交流事業		
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 池ヶ谷 知美

分野	専門分野 地域・在宅看護論	対象学年	1年	開講時期	前期										
科目	地域・在宅看護論実習Ⅰ	単位 (時間)	1単位(45時間)												
単位認定者 所属	岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師9年														
<p>実習目的・目標： 地域で生活する人々と暮らし、地域コミュニティ活動、健康支援活動（健康づくり）を理解する。</p>															
<p>実習の概要</p> <p>地域・在宅看護論実習Ⅰでは、地域および地域で生活する人びとを理解するために、地域で生活する人びとの生活の場に赴き実習を行います。どのような人々が、どのような場所で、どのような健康観（価値観）をもちながら生活をしているのか、生活の実際を見学や一緒に実施したり、インタビューを通して地域や地域で生活する人びとを深く学ぶ。</p> <p>また、地域および地域で生活する人びとの健康問題に焦点を当てて、嬉野市での健康支援活動（健康づくり）、介護予防事業などの実際を学ぶ。地域を嬉野市とその近隣に絞り込み、地域の特徴や資源を活用し地域で生活する人びとの健康問題や地域包括ケアシステムによる支え合いと地域住民の健康ニーズや生活の多様性に応じた看護の提供について学ぶ。</p>															
<p>実習計画</p> <p>1. 実習目標および実習内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実習目標</th> <th>実習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 地域および地域で生活する人々の理解ができる。</td> <td>1) 地域で生活する人びとの理解 (1) あらゆるライフサイクル (2) あらゆる健康レベル (3) 多様な場</td> </tr> <tr> <td>2. 地域の特徴、地域で生活する人々の暮らしが理解できる。</td> <td>1) 嬉野市と特徴 (1) 人口構成 (2) 生活の場 (3) 働く場 (4) 学習の場 2) コミュニティとコミュニティ活動の実際</td> </tr> <tr> <td>3. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割および社会資源について理解できる。</td> <td>1) 地域包括ケアシステムにおける社会資源の活用の実際 (1) 自助・互助・公助・共助 2) 地域包括ケアシステムにおける看護者の役割 (1) 地域で活躍する他職種 (2) 他職種・多職種連携の実際</td> </tr> <tr> <td>4. 地域で生活する人々の健康問題を理解し、健康支援活動・介護予防活動の特徴を理解する。</td> <td>1) 地域および地域で生活する人びとの健康問題 2) 地域で行われる健康支援活動（健康づくり）の実際 3) 地域で行われている介護予防活動の実際</td> </tr> </tbody> </table> <p>詳細は実習要項参照</p>						実習目標	実習内容	1. 地域および地域で生活する人々の理解ができる。	1) 地域で生活する人びとの理解 (1) あらゆるライフサイクル (2) あらゆる健康レベル (3) 多様な場	2. 地域の特徴、地域で生活する人々の暮らしが理解できる。	1) 嬉野市と特徴 (1) 人口構成 (2) 生活の場 (3) 働く場 (4) 学習の場 2) コミュニティとコミュニティ活動の実際	3. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割および社会資源について理解できる。	1) 地域包括ケアシステムにおける社会資源の活用の実際 (1) 自助・互助・公助・共助 2) 地域包括ケアシステムにおける看護者の役割 (1) 地域で活躍する他職種 (2) 他職種・多職種連携の実際	4. 地域で生活する人々の健康問題を理解し、健康支援活動・介護予防活動の特徴を理解する。	1) 地域および地域で生活する人びとの健康問題 2) 地域で行われる健康支援活動（健康づくり）の実際 3) 地域で行われている介護予防活動の実際
実習目標	実習内容														
1. 地域および地域で生活する人々の理解ができる。	1) 地域で生活する人びとの理解 (1) あらゆるライフサイクル (2) あらゆる健康レベル (3) 多様な場														
2. 地域の特徴、地域で生活する人々の暮らしが理解できる。	1) 嬉野市と特徴 (1) 人口構成 (2) 生活の場 (3) 働く場 (4) 学習の場 2) コミュニティとコミュニティ活動の実際														
3. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割および社会資源について理解できる。	1) 地域包括ケアシステムにおける社会資源の活用の実際 (1) 自助・互助・公助・共助 2) 地域包括ケアシステムにおける看護者の役割 (1) 地域で活躍する他職種 (2) 他職種・多職種連携の実際														
4. 地域で生活する人々の健康問題を理解し、健康支援活動・介護予防活動の特徴を理解する。	1) 地域および地域で生活する人びとの健康問題 2) 地域で行われる健康支援活動（健康づくり）の実際 3) 地域で行われている介護予防活動の実際														

2. 実習施設

1) 地域や地域で生活する人びとと暮らしの理解

- ・ 嬉野市内：地域行事への参加、インタビュー等
- ・ 福祉体験学習サポート
- ・ シルバー人材センター または ごましお健康クラブ

2) 地域コミュニティ活動の実際

- ・ 放課後児童クラブ
- ・ 介護予防事業：いきいきデイサービス事業 または 家族介護者交流事業

3) 地域の健康支援活動の場と健康支援活動の実際

- ・ 老人福祉センター
- ・ こども食堂
- ・ 佐賀ユートピアスポーツクラブ

履修条件

学則細則第3章第12条

専門分野の授業科目について単位履修ができていない者は学習の順序性から当該科目の実習を履修できないことがある。(詳細は履修規程や履修要項を参照)

参考文献

1. 国民衛生の動向
2. 国民の福祉と介護の動向
3. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院
4. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の展開 医学書院
5. 厚生労働省ホームページ 在宅医療の推進について

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061944.html>

評価方法

実習出席状況、実習内容、評価基準に基づき評価する。(実習要項・実習要領・評価基準参照)

分野	専門分野 地域・在宅看護論	対象学年	2年	開講時期	前期												
科目	地域・在宅看護論実習Ⅱ	単位 (時間)	2単位 (90時間)														
単位認定者 所属	岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師9年																
<p>実習目的・目標：</p> <p>地域で生活する人々の健康の保持・増進、自立支援、疾病の予防に関わる看護師の役割と看護の実際を学ぶ。</p>																	
<p>実習の概要</p> <p>地域・在宅看護論実習Ⅱでは、地域で生活する人びとの健康レベルに応じた健康の保持・増進、自立支援、疾病の予防に関わる内容を学ぶ。何らかの健康問題を持ちながらも、地域包括ケアシステムにおける社会資源を活用しながらそのひとらしく生活している状況と支援の実際を学ぶ。保健・医療・福祉の切れ目のない支援の実際を学ぶ。</p> <p>杵藤保健福祉事務所では、地域で生活する人びとの健康の保持・増進のために、どのような保健・福祉活動が行われているか、他・多職種連携の実際を学ぶ。</p>																	
<p>実習計画</p> <p>1 実習目標および実習内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実習目標</th> <th>実習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 地域で生活する人びとのあらゆる健康レベルを理解できる。</td> <td>1)健康レベルの把握 2)健康問題が日常生活に及ぼす影響 3)地域で生活する人びとの多様性 4)その人らしさの理解</td> </tr> <tr> <td>2. 地域で生活する人々の健康の保持・増進と疾病予防、自立支援の実際を理解できる。</td> <td>1)健康レベルに応じたかかわりの実際 (1)健康の保持・増進 (2)疾病予防 (3)自立支援 2)QOLを向上させる関わりの実際</td> </tr> <tr> <td>3. 地域で生活する人びとの特徴を踏まえ、尊重した態度で関わるができる。</td> <td>1)共感的、受容的態度で相手を尊重した言葉使い 2)生活史や価値観を尊重した態度 3)人権権利と権利擁護</td> </tr> <tr> <td>4. 地域で生活する人びとを取り巻く保健・医療・福祉チームの役割と連携について理解できる。</td> <td>1)施設・事業所の役割と機能 2)地域で生活する人びとを取り巻く他職種の役割 3)地域で生活する人びとを支える多職種連携</td> </tr> <tr> <td>5. 保健医療福祉機関の連携および活動の実際を理解できる。</td> <td>1)保健福祉事務所の役割 2)地域で生活する人びとを支える保健・福祉活動の実際</td> </tr> </tbody> </table> <p>詳細は実習要項参照</p>						実習目標	実習内容	1. 地域で生活する人びとのあらゆる健康レベルを理解できる。	1)健康レベルの把握 2)健康問題が日常生活に及ぼす影響 3)地域で生活する人びとの多様性 4)その人らしさの理解	2. 地域で生活する人々の健康の保持・増進と疾病予防、自立支援の実際を理解できる。	1)健康レベルに応じたかかわりの実際 (1)健康の保持・増進 (2)疾病予防 (3)自立支援 2)QOLを向上させる関わりの実際	3. 地域で生活する人びとの特徴を踏まえ、尊重した態度で関わるができる。	1)共感的、受容的態度で相手を尊重した言葉使い 2)生活史や価値観を尊重した態度 3)人権権利と権利擁護	4. 地域で生活する人びとを取り巻く保健・医療・福祉チームの役割と連携について理解できる。	1)施設・事業所の役割と機能 2)地域で生活する人びとを取り巻く他職種の役割 3)地域で生活する人びとを支える多職種連携	5. 保健医療福祉機関の連携および活動の実際を理解できる。	1)保健福祉事務所の役割 2)地域で生活する人びとを支える保健・福祉活動の実際
実習目標	実習内容																
1. 地域で生活する人びとのあらゆる健康レベルを理解できる。	1)健康レベルの把握 2)健康問題が日常生活に及ぼす影響 3)地域で生活する人びとの多様性 4)その人らしさの理解																
2. 地域で生活する人々の健康の保持・増進と疾病予防、自立支援の実際を理解できる。	1)健康レベルに応じたかかわりの実際 (1)健康の保持・増進 (2)疾病予防 (3)自立支援 2)QOLを向上させる関わりの実際																
3. 地域で生活する人びとの特徴を踏まえ、尊重した態度で関わるができる。	1)共感的、受容的態度で相手を尊重した言葉使い 2)生活史や価値観を尊重した態度 3)人権権利と権利擁護																
4. 地域で生活する人びとを取り巻く保健・医療・福祉チームの役割と連携について理解できる。	1)施設・事業所の役割と機能 2)地域で生活する人びとを取り巻く他職種の役割 3)地域で生活する人びとを支える多職種連携																
5. 保健医療福祉機関の連携および活動の実際を理解できる。	1)保健福祉事務所の役割 2)地域で生活する人びとを支える保健・福祉活動の実際																

2. 実習施設

- ・嬉野医療センター地域医療連携室：前方支援
- ・保健福祉事務所
- ・宅老所
- ・特別養護老人ホームうれしの または 特別養護老人ホーム済昭園 または 特別養護老人ホーム済昭園・清涼館
- ・介護老人保健施設ケアコートゆうあい または 介護老人保健施設朋寿園 または 認知症対応型グループホーム、特定施設

履修条件

学則細則第3章第12条

専門分野の授業科目について単位履修ができていない者は学習の順序性から当該科目の実習を履修できないことがある。(詳細は履修規程や履修要項を参照)

参考文献

1. 国民衛生の動向
2. 国民の福祉と介護の動向
3. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院
4. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の展開 医学書院
5. 厚生労働省ホームページ 在宅医療の推進について

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061944.html>

評価方法

実習出席状況、実習内容、評価基準に基づき評価する。(実習要項・実習要領・評価基準参照)

分野	専門分野 地域・在宅看護論	対象学年	3年	開講時期	前期						
科目	地域・在宅看護論実習Ⅲ	単位 (時間)	1単位(45時間)								
単位認定者 所属	岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師9年										
<p>実習目的・目標： 健康問題を持つ在宅療養者とその家族を対象とする看護、地域包括ケアの実際を学ぶ。</p>											
<p>実習の概要</p> <p>健康問題をもつ地域・在宅療養者の看護の実際を訪問看護を通して学ぶ。訪問看護の特徴として看護の提供の場は療養者が生活しているところであり、看護の対象は在宅で生活しながら療養する個人とその家族である。各々の家庭に入り援助するためには、看護者と療養者およびその家族との関係性が重要であり、療養者および家族の意思や価値観を大切にし、ニーズに応えられる看護の提供が求められる。対象を理解し、対象に応じた日常生活援助の実際を学ぶとともに、保健・医療・福祉の切れ目のない社会資源の活用も含め地域・在宅療養の課題（生命維持の難しさや日常生活上での困難さなど）について考え学ぶ。</p> <p>地域・在宅療養者の健康の保持増進と疾病予防に関わる支援では、居宅介護支援事業所および地域包括支援センターにおいて在宅療養者の健康の保持・増進と疾病予防に関わる看護を学ぶ。居宅介護支援事業所では、医療施設から在宅療養に向けての支援が必要な対象を理解し、地域・在宅療養へ移行するための課題や継続看護の必要性を学ぶ。また、介護支援専門員と訪問面接に同行し、利用者および家族のニーズを理解し、ケアマネジメントのプロセスと社会資源の活用の実際について理解を深める。</p> <p>医療施設から在宅療養に向けての看護では、神経難病患者の看護を通して、医療施設から在宅療養に向けての支援が必要な対象を理解し、在宅療養へ移行するための課題や継続看護の必要性を学ぶ。</p> <p>地域・在宅療養をしている人々の外来受診の実際を見学し、人々の健康ニーズや健康問題を理解し、学びを深める。</p>											
<p>授業計画</p> <p>1. 実習目標および実習内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実習目標</th> <th>実習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 地域・在宅看護の対象が理解できる。</td> <td>1) 地域・在宅で療養する対象の身体的・精神的・社会的状況 2) 地域・在宅で療養する対象の生活状況 3) 対象及び家族のニーズとそれに応じた看護の必要性</td> </tr> <tr> <td>2) 地域における保健・医療・福祉、看護活動の実際を知り、地域で生活する人々の健康がどのように守られているか理解できる。</td> <td>1) 療養生活の場、地域・在宅看護の場の違い 2) 在宅での日常生活援助、医療処置や看護、医療機器管理を必要とする対象への援助や指導の実際 3) 家族の介護状況を考慮した指導や支援</td> </tr> </tbody> </table>						実習目標	実習内容	1) 地域・在宅看護の対象が理解できる。	1) 地域・在宅で療養する対象の身体的・精神的・社会的状況 2) 地域・在宅で療養する対象の生活状況 3) 対象及び家族のニーズとそれに応じた看護の必要性	2) 地域における保健・医療・福祉、看護活動の実際を知り、地域で生活する人々の健康がどのように守られているか理解できる。	1) 療養生活の場、地域・在宅看護の場の違い 2) 在宅での日常生活援助、医療処置や看護、医療機器管理を必要とする対象への援助や指導の実際 3) 家族の介護状況を考慮した指導や支援
実習目標	実習内容										
1) 地域・在宅看護の対象が理解できる。	1) 地域・在宅で療養する対象の身体的・精神的・社会的状況 2) 地域・在宅で療養する対象の生活状況 3) 対象及び家族のニーズとそれに応じた看護の必要性										
2) 地域における保健・医療・福祉、看護活動の実際を知り、地域で生活する人々の健康がどのように守られているか理解できる。	1) 療養生活の場、地域・在宅看護の場の違い 2) 在宅での日常生活援助、医療処置や看護、医療機器管理を必要とする対象への援助や指導の実際 3) 家族の介護状況を考慮した指導や支援										

<p>3) 保健・医療・福祉機関の連携と看護の継続性について理解できる。</p>	<p>1) 他職種・多職種との連携 2) 他職種・多職種との連携における看護師の役割 3) 医療施設から地域・在宅療養に向けての課題 4) 対象をとりまく諸制度と社会資源の活用 5) 居宅介護支援事業所の機能と支援の一連の流れ</p>
<p>4) 看護の対象や家族及び医療スタッフと良い人間関係を築き、相手を尊重した態度を身につける。</p>	<p>1) 看護者として、実習生としての自分の立場を考えた行動や対応</p>

詳細は実習要項参照

2. 実習施設

- ・訪問看護ステーション
- ・居宅介護支援事業所 または 地域包括支援センター
- ・長崎川棚医療センター 5階病棟・8病棟

履修条件

学則細則第3章第12条

専門分野の授業科目について単位履修ができていない者は学習の順序性から当該科目の実習を履修できないことがある。(詳細は履修規程や履修要項を参照)

参考文献

1. 国民衛生の動向
2. 国民の福祉と介護の動向
3. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院
4. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の展開 医学書院
5. 厚生労働省ホームページ 在宅医療の推進について
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061944.html>

評価方法

実習出席状況、実習内容、評価基準に基づき評価する。(実習要項・実習要領・評価基準参照)